

くすりの豆知識

—もっと知りたい! おくすりのこと!—

No.3

薬の剤形 —いろいろ—

その2

【外用薬の剤形】

薬を効かせたい場所に直接使用するため、飲み薬よりも効き目が早く副作用が少ないのが特徴です。

外用薬には主に次のものがあります。

●ぬり薬

皮膚に直接ぬることで皮膚から薬を吸収させます。

- ・軟膏剤：乾燥したところ、じくじくしたところの両方に使います。
- ・クリーム剤：カサカサ乾燥したところに使います。
- ・ローション剤・液剤：頭皮や爪の中などクリーム剤などをぬりにくいところに使います。

●貼り薬

皮膚に貼り付けて薬を吸収させます。

- ・パップ剤：布に薬などをやや厚くぬったタイプ
- ・プラスター：ポリエチレンフィルムに薬と粘着剤を薄くぬったタイプ
- ・経皮吸収型テープ：貼ると放出制御膜を通して徐々に薬が放出され吸収されるタイプ



●点眼剤

無菌の外用薬で、目の表面（角膜）を保護するものと、粘膜など（結膜囊）から薬を吸収させて効き目をあらわすものがあります。

●点鼻剤

鼻の中に薬液を滴下または噴きつけて鼻粘膜から吸収させます。

●点耳剤

耳の中に薬液を滴下して、炎症を抑えたり、殺菌や耳垢（みみあか）を柔らかくする目的で使います。

●吸入剤

専用の器具を用いて薬を口から吸い込み、気管支や肺に直接作用させます。



●うがい薬

薬をそのまま、または水で薄めてうがいに使い、のどや口腔内の炎症を鎮めたり感染予防や消毒に使います。



●坐剤

体温や分泌物・水分で溶ける材料に薬を混合してロケット状にしたもので、肛門や膣から挿入して使います。

2018/10/18